

2017年11月30日発行

### 条件なき救い

水戸 潔

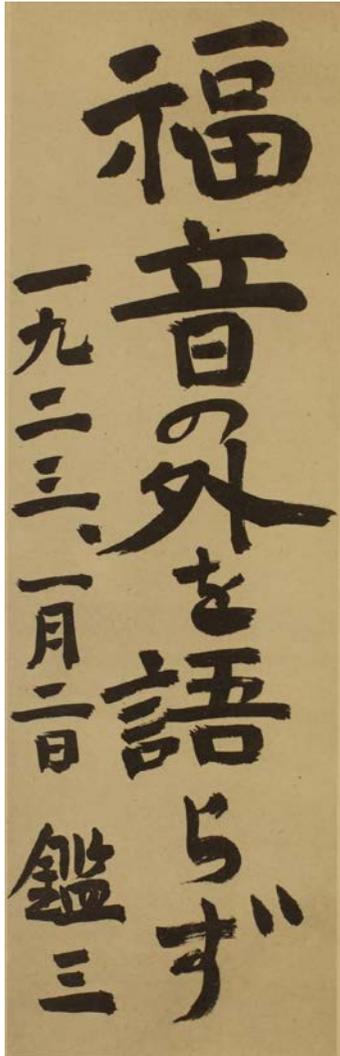
私たちの救いとは端的に言って罪赦され、義とされることであろう。律法の呪縛の中で生きてきたパウロは、「人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰による」（ロマ3章28）と表白した。この場合の信仰とは、その人の信仰であって、他人の信仰ではない。

ところが、福音書にはイエスの不思議な言動が出てくる。カファルナウムで中風の人がイエスのところに運ばれてきたとき、イエスはその病人の信仰ではなく、病人を運んできた「その人たちの信仰を見て」「子よ、あなたの罪は赦される」と言って、罪を赦し、病を癒やされたのである（マルコ2章。並行記事マタイ9章、ルカ5章。三つの記事とも「その人たちの信仰を見て」と書かれている）。

イエスはその人を救うにあたって、その人の信仰を条件とはしない。ここではイエスの視線はその人の救いを願ってやまない人、助けの手をのべる人の信仰に注がれる。そしてこの場合の信仰とは、形式的な信仰ではなく、「一途な思い」「信実（まこと）」とも言うべきものであろう。

更に驚くべきことに、そのあとイエスは罪赦され病癒やされた人に何も要求されない。福音書はその後の彼の人生については記述していない。しかし私は、この癒やされた人は、きっとイエスに感謝しイエスを信じる人生を送ったに違いないと思う。この消息を、内村鑑三はこう述べている。

「彼の信仰は救いの結果であって、信仰が救済の原因であるのではない。『なんじらの信ずるは神の大なるちからはたらきによるなり』とは聖書が力をこめて述べ伝うるところであって、われらは信仰によって救われるというものの、その信仰そのものが神の特別なるたまものであることを、われらは決して忘れてはならぬ。」（「聖書の研究」34号）



今年ルターの宗教改革発端の年から500年目にあたる年であるが、画期的な改革の中で、ルターはカトリックの sacrament から「洗礼と聖餐式」を残してしまった。それが救いや恵みを受けること条件として機能することになったのは非常に残念であった。無教会がそれを超えたことの意義を改めて考えさせられる年となった。

(浜松聖書集会)

# 目 次

表紙・巻頭言	
目次・内村鑑三の言葉・揮毫の説明……………2	学校・学寮だより…………… 7
第39回内村鑑三研究会報告……………3	全国各地からの報告……………10
宗教改革500年・無教会研修所開所25周年記念 「キリスト教講演会」……………4	定期集会・地域別特別集会等……………12
無教会全国集会(2017)報告……………5	事務局便り……………15
	編集後記……………16

## 内村鑑三の言葉

## 平和の預言としての天使の告知

内村鑑三

人類に賜わりし平和に関する多くの預言の中に、最も大なるものは、イエスの誕生に際し天使の一団がベツレヘムの郊外に羊を飼うものに伝えし讚美の歌であった。いわくいと高き所には栄光神にあれ 地には平和 ひとにあれ (中略) 平和は人類相互の妥協をもって成立するものではない。父なる神を相ともに愛するより来るものである。

(『聖書之研究』1917年12月、『内村鑑三 聖書注解全集』9巻、教文館、1965年)

(選：今井館教友会理事長 大山綱夫)

## 表紙の写真について

「福音の外を語らず」 内村鑑三遺墨集より

この表題の言葉と巻頭言と全国集会で講演者の方々が語られた言葉が見事に調和して中心点を指し示しており無教会の本質を表しています。39号の表紙にふさわしい言葉の写真はないかしらと悩みながら探していたときに目に飛び込んで来ました。 ”これぞ神様からの贈り物だ！” と大喜びで採用させていただきました。

(K. N)